

日時：3月24日（火）16：30～18：30

場所：山梨総合研究所 6F 会議室

テーマ 健康産業の動向

3月研究会では、健康をテーマに県内事業者による取り組みの発表及び意見交換を行った。

1. ヴィンテージリゾート・ヴィンテージファームの健康づくり

山田 守郎氏（ヴィンテージリゾート株式会社社長、株式会社ヴィンテージファーム社長）

日本の姿は家族の姿を反映していると思う。物質的に豊かになったが、精神的に豊かといえるかどうか。

核家族、小さな家の中の個室、食事も個食化している。かつては3世代同居といった家族もあったが、多くは核家族に変わり、単身暮らしに推移し、将来の家族の姿はどうなっていくのか？食事も様変わりしていると思う。農産物、魚の姿を知らない子供、調理を知らない親も多い。

私共はゴルフ場を経営しているが、男性が楽しむだけ。奥さんの趣味が違えば、まず一緒にやってくることはない。レジャーも夫婦別々に楽しむものになっている。家族の共通体験がないと会話はない。語り合える相手がいれば、生活は楽しい。

こうした共通体験を提供するために、「家族楽園」といった取り組みを始めた。これは、農業やアウトドア体験を通じて、一家のひと時を過ごして頂き、生きる力を身につけてもらおうという取り組みで、弊社の施設ばかりでなく、増富温泉などの周辺行楽地と協力して進めている。この家族楽園では、地域の農業やアウトドアの名人にいわば「教授」として協力頂いている。今まで培ってきた知識・経験に基づき地域内外の参加者に実地指導することで、参加者は経験価値の豊かさに気づき、お年寄りの名人は共感を得ることで元気になる。

ワインオーナー制度は、ブドウからワインまでの生産過程を知って頂くプログラムで、自分たちが育て収穫したブドウで作ったワインがもらえる。会費は1万円からとワイン代程度であるが、農作業や収穫の体験を通じ家族の会話が弾んだり、四季それぞれの風景を見ることで情感が深まればと考えている。



ヴィンテージファーム（ブドウ収穫）



ヴィンテージファーム（ブドウ園）

今、日本は高齢化の真只中にあり、このままでは年金はもとより医療の崩壊が危惧されている。医療・年金は世代間の支えあう仕組みであるが、持続不可能であることは明らかである。また、家や食事は金で買えるといった危ういライフスタイルであるが、健康や元気は金では買えない。

昨年8月に「癒しと不思議の科学」という生命情報科学シンポジウムが北杜市で開催された。このパーティー会場で、(社)日本統合医療学会の渥美前理事長と面識を得た。

統合医療は西洋医学の対症療法と、鍼治療・薬草・用手治療などの伝統医学や代替医療を統合し、一人ひとりの患者にもっとも適切なオーダーメイドの医療を提供しようとするもの。国際的に医療資源、財源不足が進行するなかで、伝統医学・代替医療が必要であるとの考え方が主流になりつつある。解決策の一つが統合医療である。西洋医学つまり医者では治せない病気がたくさんあるが、心臓病や糖尿病のような生活習慣病は食事や運動で治せるものもある。

北杜市の豊かな資源を活かし、統合医療が実践できる里を構築することは、日本が健康先進国として世界の最前線に立つチャンスでもあり、地方再生のモデルともなりえる。こうした観点から、「食」「学（び）」「動（運動）」「医（診断）」が実践できる里づくりを手がけている。この5月には80人収容のホテルの整備を予定している。



2. 増富温泉の取り組み

小山 芳久氏（増富の湯 支配人）

増富地域は瑞垣山と金峰山の山麓に位置し、面積は約 100 平方キロメートル、その内 95%が森林である。耕作地は 290ha であるが、約 60%に相当する 165ha は耕作放棄地となっており、今後急速に拡大していくことが予想される。

人口は 530 人、高齢化率は 64%。農業従事者 25 人（60 歳代が中心）、林業従事者が 40 人、温泉峡従事者が 50 人である。

当地域は少子化のため、小中学校が廃止。超高齢社会であっても人口減少のためにすでに医療機関もない。また、消防や地域集落の維持管理は 30～50 歳代の青年部が担っているが、相対的若年層の負担は高くなるばかりである。



瑞垣山



増富温泉峡

当地域は日本百名山の瑞垣山、金峰山をはじめ、多様な植生、野性鳥獣が生息するなど自然環境に恵まれ、山菜、花豆、ミネラル豊富な米、きのこなどの食材があり、信玄の隠し湯として 400 年余もの伝統を誇るラジウム・ラドン温泉といった地域資源がある。

増富温泉は地域の中心である。増富地区の来訪者は年間 17 万人で、旅館の宿泊者は 3 万人、増富の湯の日帰り客は 7 万人、その他の 7 万人は瑞垣山や金峰山の登山客などであるが増富温泉峡には立ち寄らない。年間の売り上げは 3 億円弱である。つまり、人口 530 人の地域に、毎日 500 人近くの人が来訪し、82 万円の消費を行っている。

地域の人々と検討し、今後3年間の目標は、以下のように設定している。

○ 増富地区の来訪者 17 万人の内、増富温泉峡に訪れていない 7 万人の来訪者について、1 万人が増富温泉峡に訪れる仕組みを構築したい。(1 日 27 人の集客アップ)

例えば、登山口と増富温泉の間にある本谷川の溪谷沿いに、魅力的な林間遊歩道などを整備し連絡すれば、登山客の一部が温泉峡に訪れるのではないかと考えている。

○ 現在の雇用者 115 人から 30 人の雇用者増。(農業法人設立による農業従事者の増加、来訪者増による温泉従事者の増加など)

そのための平成 27 年度の取り組みとしては、以下のようなことを計画している。

1. 増富における温泉客の滞在の仕組みづくりと各施設、住民との相互連携強化
2. 増富地区に訪れる 17 万人の来訪者が地域に循環して過ごす仕組みづくり
3. 保養地としての環境づくり (医療と食育・農業)

将来的には、「世界に誇る健康づくりの里」を目指していきたい。

こうした活動を進めるに当たっては、(株) ヴィンテージリゾートや (特非) えがおつなげて等の地域既存組織と連携していく。

